

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園
- 2 指定管理者名：社会福祉法人 福岡コロニー
- 3 指定期間：平成24年4月1日～平成29年3月31日
- 4 施設設置目的：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第百二十三号）第八十三条第二項の規定に基づき、障がいのある人の自立を支援し、就労の機会の提供その他必要な訓練を行うため、福岡県障がい者就労支援ホームあけぼの園を設置する。
- 5 管理運営についての点検結果（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
 - (1)点検方法：事業報告書、ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果：別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業の利用者を中心に、多くの障がいのある方が一般就労に移行できるよう、必要な訓練及び支援を実施していく。 ・就労継続支援B型事業の利用者を中心に、平均工賃の向上に取り組んでいく。 ・生活介護事業の利用者を中心に、重度の障害者の就労（表現の場）を充実させていく。 ・各施設種別協議会に加入し連携・情報収集を図っていく。 ・利用者の要望、ニーズの確認を行いながら、日々のサービスに反映させていく。 ・苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員を選任し、苦情受付体制を整え、苦情申立人に対して誠意を持って対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援事業では、施設外作業や納品同行、立位作業訓練等を増やし社会性と就労能力の向上を図った。関係機関（障害者就業・生活支援センターやハローワーク等）と協力し実習等の調整を行った。就職者には、きめ細かな定着支援を行い安心して働き続けることができるように配慮した。（実績）職場実習調整2件、定着支援4件、施設外作業9件。 ・B型事業では、除草作業や縫製作業、簡易作業を積極的に導入した。除草作業においては、これまでの実績をもとに新たに飲食店と年間契約を結んだ。地元企業からの除草作業も順調に増え売上は前年比+12%となっている。簡易作業では、野菜の仕分けを導入し売上だけでなく利用者の出勤率等の向上へ繋がっている。縫製作業に関しては、地元の高齢者への贈答品や博多織とのコラボ製品の製作を行った。福岡県広報部長の「エコトン」のぬいぐるみ製作は、関係各所の要望に応え製作実績が大きく伸びた（実績206体、前年比+35.5%）。縫製全体の売上は前年比+9%となっている。B型事業の平均時給は142円。 ・生活介護事業では、地域のボランティアの協力のもと「手話ダンス」で新たな曲に挑戦した。地域でのイベント出演の機会を増やし利用者、家族、地域の方より好評を得た。また、重度の方でも対応できる簡易作業（ボール磨き）を導入し、利用者全員に工賃を支払うことができた。 ・28年度より、福岡県社会就労センター協議会や福岡県身体障害者施設協議会の役員となり、他施設との連携、研修会の企画・参加等を積極的に行った。 ・筑紫地区自立支援協議会に参加し、地域における福祉的な課題等について情報交換を行っている。 ・通所利用者に対して宿泊体験を実施した。余暇活動支援として月4回のクラブ活動や、年3回の日帰旅行と季節感のある行事を実施した。 ・苦情対応規定や苦情受付フローチャート図を整備し、第三者委員として弁護士、大学の先生（専門家）を配置し対応を行っている。 ・地元の社会福祉協議会と連携して、小学校の福祉教室に利用者が講師として参加し、当事者目線での意見交換をする機会を持ち、地域の福祉教育に協力している。
②施設利用及びサービス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の安全衛生委員会を通じて、リスク管理を行い安全で快適なサービスを実施していく。 ・ホームページや機関誌による情報発信を図る。 ・社会福祉関連資格等の実習生を積極的に受け入れ、社会資源の一つとしての役割を果たしていく。 ・利用者満足度調査を実施し、当事者目線でのサービス満足度を確し、結果については所内に掲示し利用者へ知らせていく。 ・利用者自治会や家族との懇談会を実施し、要望等の確認を行っていく。 ・なんでも相談窓口を設置し、施設利用に際しての苦情をはじめ、様々な不満・要望等の相談を利用者自ら並びに家族又は代理人から受付できる体制を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定員：施設入所（40人）、生活介護（10人）、就労移行（20人）、就労継続支援B型（30人） ・利用者数（平均）：施設入所31.1人（対前年度比△4%、対平成17年度比△36.5%）、生活介護8.9人（対前年度比△1.1%）、就労移行6.4人（対前年度比△33.3%）、就労継続支援B型30.8人（対前年度比+3.4%） ・施設稼働率（平均利用者数/定員）：施設入所支援（77.8%）、生活介護（89%）、就労移行支援事業（32%）、就労継続支援B型事業（102.7%） ・法人の安全衛生委員会と連携し、施設内の安全衛生委員会（安全、衛生、交通、防災班）を通じて、避難訓練（2回/年）、害虫駆除（1回/年）、禁煙日の設定（1回/月）、職場巡視を行い安全で快適な環境提供に努めている。10月には、自然災害に備えて水害等想定避難訓練を実施した。また、防犯対策の強化として、防犯関連研修への参加、防犯マニュアルの策定、来客者受付体制の変更を行った。 ・ホームページに工賃実績とともに年間行事や1日のスケジュール等の情報をアップし、施設利用のイメージがしやすい配慮を行った。また、ブログを活用し施設での日常の情報発信を行った。機関誌（年4回）の発行も合わせて行っている。 ・福祉の人財育成に協力するため、多くの実習生を受け入れた。社会人に関しては、実習期間の分割等、可能な限りの配慮を行った。（実績）：介護等体験実習生 13名（受入13校）、社会福祉援助現場実習生5名（受入4校）、保育実習生4名（受入1校） ・健康面においては、嘱託医と連携しがん検診への働きかけやリハビリ、保健指導を充実させた。 ・地域の歯科医院の協力のもと重度・高齢化対策として、職員を対象に口腔ケアの研修会を実施した。 ・重度・高齢化に対して、買い物の同行支援や代行のサービス、入浴時間の見直し等を行い、生活支援体制を充実させた。 ・毎月、月初に定例会を開き利用者からの要望の確認を行った。利用者自治会とは、懇談会を開催し意向確認を行った。行事の時には、利用者からの実行委員を募り、一体感を大切に運営を行っている。近年、障がいの重度・高齢化により自治会の運営が難しくなっており、必要に応じて運営の補助を行っている。 ・3月に利用者満足度調査（匿名のアンケート方式）に基づき、サービスの改善に取り組んでいる。嗜好調査（1回/年）も実施し、食事に関する意向の確認を行っている。 ・なんでも相談の窓口（弁護士、心理の専門家、法人）や苦情受付体制を整備し、あらゆる相談を受付ができる体制を整えている。

<p>③経営（収支）改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村や各関係機関と連携して、地域の福祉ニーズを把握しながら利用者の確保に努めていく。 ・近隣の特別支援学校、高等学園からの実習・見学に積極的に対応し、利用者の確保に努めていく。 ・職員による清掃業務の実施や環境整備、備品の管理の徹底、計画的な業務の遂行を行うことで、経費節減に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・28年度 利用料収入実績124,130千円（前年度比△3.9%）、管理運営費114,091千円（対前年度比 0.0%） ・利用者の負担のない範囲で、計画的なエアコンの運用、温度設定、消灯等の節電に取り組み、光熱水費を前年比△9%削減することができた。 ・特別支援学校の実習については、学校、家族と連携し個別的配慮の必要な方の受入を優先して行った。 ・特別支援学校と連携して、保護者向けの進路相談会や見学会、意見交換会等を行った。 ・生活介護事業、就労継続支援B型事業の利用相談が多いため、地域の福祉ニーズとして、定員変更について検討をしている。
<p>④職員確保方策及び健全な財政基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容に応じた専門職員や責任者の配置を行い、また、計画的に研修等に参加し資質の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人で教育研修規定を整備し、内部研修だけでなく積極的に各種協議会等の実施する研修会へ参加し、専門性の向上等に努めている。外部研修には38回参加、内部研修8回実施。 ・管理者のもとに、実践経験のある責任者（係長1名、主任1名）、専門職（保健師、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士）を配置し、良質なサービスが展開できる体制を整えている。 ・障がい特性等に適切に対応するため、強度行動障害者研修修了者、実務者研修修了者、平成21年厚生労働省告示178号修了者を配置している。 ・県からの委託料を受けることなく、健全な財務体質を維持した。
<p>⑤施設管理上の個別事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空間設備、防災設備、ボイラー等、施設の維持保守を適正に実施する。 ・サービス提供時に病状の急変等の事態が生じた場合を想定し、主治医や救急医療措置等協力機関との連携を図る。 ・定期的に避難、救出その他必要な訓練を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備保守点検 2回／年、空調設備保守点検4回／年、自動ドア保守点検3回／年、自家用電気工作物保守点検／毎月、電気設備点検1回／年、ボイラー点検1回／年、貯水槽点検1回／年、厨房内ダクト清掃1回／年、定期清掃（洗剤洗浄）／毎月、定期清掃（ワックスがけ）1回／3月 実施。 ・防災避難訓練を昼間想定7月、夜間想定3月に実施。10月には水害等想定避難訓練の中で、指定避難所まで利用者全員で避難を行った。 ・9月に2日間かけて全職員を対象に普通救命講習会を実施し、AED（自動体外式除細動器）の取り扱い等の緊急時における訓練を行った。毎年、実施することで緊急時における迅速対応を目指している。

②点検結果

<p><input type="checkbox"/> A+ （提案内容を上回った）</p> <p><input type="checkbox"/> A （提案内容をやや上回った）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B （概ね提案内容どおり）</p> <p><input type="checkbox"/> C （提案内容をやや下回った）</p> <p><input type="checkbox"/> D （提案内容を下回った）</p>	<p>【総合コメント】</p> <p>提案内容に沿って、概ね適切に管理運営がなされている。</p> <p>除草作業では、企業との契約を増やし、売り上げを伸ばすことができ、また、福岡県広報部長「エコトン」のぬいぐるみ制作をはじめとした縫製についても、売り上げを伸ばすことができた。</p> <p>また、重度の方でも対応できる簡易作業を導入し、工賃向上に努めた。</p> <p>高齢・重度化に対し、買い物の同行支援や代行のサービス等生活支援体制の充実を図った。</p> <p>小学校の福祉教室への参加により地域の福祉教育に協力し、また、実習生の受け入れにより福祉の人材育成にも協力している。</p> <p>定例会や利用者満足度調査により利用者の要望を確認し、サービスの改善に取り組んでいる。</p> <p>引き続き、利用者の確保に努めるとともに、訓練及び支援の質の向上を目指した施設運営が求められる。</p>
---	--